

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/09/01 ～2022/11/02)

1. 勉学の状況

授業が始まるまでに、学部留学生向けのオリエンテーションでは、同じ学部に留学している他大学の日本人学生と知り合うことができ、参加してよかったと思います。履修登録などすべての手続きがネットでできず、書類を準備し提出しに行かなければならないため、面倒でした。

前期は、Seminario de traducción Japonés-Español, Lengua Española, Cultura de Masas de Asia Orientalno の3つの授業を履修しています。

1 つ目は日本語からスペイン語に翻訳する授業です。日本人と現地の学生が約 5 : 5 で、先生はとても親切です。内容は、ただ日本語の文章をスペイン語に翻訳するのではなく、日本に関する前提知識がない人にもわかるように翻訳するにはどのような表現を使えばいいのか、日本語独特の表現を翻訳するには、どの言葉が適切なのかを考えながら翻訳します。翻訳力だけでなく、日本語の独自性や日本とスペインの文化や価値観の違いなども実感できる授業で、とてもおもしろいです。

2 つ目はスペイン語について学ぶ授業です。文献学部の 1 年生は必修の授業で、人数はかなり多く、留学生は数人程度です。内容は、スペイン語の文法構造や各品詞の働きなど、スペイン語そのものについて学習します。「副詞」「前置詞」「再帰動詞」「無人称」など、専門用語が多く使用され、慣れない単語なので授業中にすぐに理解するのは難しいですが、先生が大事なポイントをかなりゆっくりと、簡単な言葉に言い換えながら、繰り返し説明してくれるので、ノートもとりやすいです。また先生は、この授業を留学生が履修していること、日本や英語圏から来ていることを理解してくれているので、私たちにも分かるように、スペイン語独特の文法事項を詳しく説明してくれます。グループワークがありますが、現地の学生がノートを見せてくれたり、課題を手伝ってくれたりします。この授業は、その場で理解するのは難しいため、録音した音声や貸してくれたノート、パワポを見ながら復習しています。

3 つ目は、東アジアの大衆文化についての授業です。学生数も多く、日本人も少しいます。内容は、音楽や映画、アニメなど東アジアの現代文化について学ぶ授業です。授業で取り扱う題材は親しみのあるものが多く、日本に興味がある学生も多く履修しているため、比較的理解しやすいです。

また授業以外の活動では、サラマンカ大学で日本語の授業を開講している日本人の先生の授業にアシスタントとして参加しています。日本語を学習している現地の学生の会話練習の相手や、作文の手伝いをしています。普段、無意識的に使い分けている言葉の意味の違いや、より自然な言い回しについて聞かれることがあり、微妙なニュアンスの違いを説明するのは難しいです。

その他に、10 月から大学で開講されているスペイン語コースを履修しています。このコースではサラマンカ大学に通う留学生向けに開かれていて、週 5 日 2 時間 3 週間のプログラムです。20 人程度のクラスでほとんどがヨーロッパ人です。基本的な部分から文法事項を学習するのでとてもよい復習になります。サラマンカ出身の先生で、動詞の活用や使い分けのニュアンス、ネイティブならではの感覚などもあわせて説明してくれるので、内容は易しくても勉強になる授業です。

2. 生活の状況

私は大学から徒歩 10 分弱の場所にあるピソというルームシェア型のアパートに住んでいます。お店が多い大きな通りや広場に近く、スーパーや飲食店など徒歩ですぐに向かうことができます。大通りも近く、アパート周辺はバルやクラブがあって夜中まで多くの人で賑わっていますが、建物の中はとても静かで夜もよく眠れます。同居人は、ウクライナ人、フランス人、イタリア人、中国人で、全員サラマンカ大学の学生です。全員がスペイン語を母語とせず、スペイン語をネイティブレベルで話す人がほとんどいないため、時に英語も交えながら話をします。到着前は、初対面の人とルームシェアをするので、心配な部分もありましたが、良好な関係を築けています。多少の生活リズムの違いはありますが、気になったことは話し合ったり、助け

合ったりしながら、トラブルや大きな不満もなく生活できています。

人間関係も良好です。大学の授業で知り合った人、クラブやバルで出会った人、友人の紹介で出会った人など、いろいろな人に出会う機会が多く、留学が始まってまだ 2 か月ほどですが、友人がたくさんできました。千葉大学から同じく留学している 2 人ともよく会っています。気兼ねなく日本語で話すことができ、良いリフレッシュになります。

物価が高いのと、円安がすすんでいることが重なり、金銭面は厳しいです。食事は基本的に自炊をしていますが、外食に誘われる機会が多く、レストランやバルの値段は日本と比べると割高で、食費がかなりかかってしまいます。また、私のピソは以前から住んでいる人はいないため、基本設備以外何も無く、包丁やトイレットペーパー、ゴミ袋などの日用品のほとんどすべてを買いそろえなければいけませんでした。その他にも、ベッドシーツや毛布、布団、タオルなども買う必要があったので、初期費用がかなりかかってしまいました。

健康面では、空気がかなり乾燥しているのと、朝晩が冷えるので、到着して 1 週間経ったときと、1 か月過ぎたころに喉風邪をひきました。1 回目は、声がかがらがるにだけでしたが、2 回目のときは喉の痛みと咳が 1 週間ほど続き、声が出なくなりました。日本から持参した薬を飲んだり、飴をなめたりして過ごしました。日本人の友人の多くも、喉風邪になっていたのので日本との気候の違いが大きいと思います。また、熱が出て体調を崩したこともあったので、体調管理に気を付けたいと思います。

サラマンカでは、公共交通機関のみマスクの着用義務がありますが、それ以外ではマスクをせずに生活ができます。大学の授業もすべて対面で、飲食店には仕切りや人数制限もなく、コロナの影響はほとんどない状況です。友人の中にはコロナに感染した人やルームメイトが感染したという人もいますが、大学や周囲の対応としては普通の風邪とあまり変わらず、感染したからといって偏見を持たれることはありません。引き続き体調に気を付けて過ごしたいと思います。

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/11/03 ～2023/02/13)

1. 勉学の状況

授業は最初ついていくことで精いっぱいでしたが、徐々に先生のスペイン語も聞き取りやすくなり、授業を聞くのが少し楽しくなりました。授業は12月中に終わり、1月のテストに向けてクリスマス休暇に入りました。成績評価については、履修している3つの授業のうち、1つは期末課題の提出、もう1つは期末課題の提出と授業でのプレゼン、もう1つは期末テストがありました。プレゼンは同じグループの人たちに助けられながら、スペイン語で3～4分程度の発表をしました。その他の期末課題については、先生が授業のWebページの掲載している資料を見ながら取り組みました。

スペイン語についての授業には期末テストがあり、スペイン語の文法構造や見解をスペイン語で記述解答しなければならず、準備に時間がかかりましたが、過去問を解いたりノートを見直したりして、本番に臨みました。テストは記述形式で10問解いた後、事前に読むように指示されていた資料についての長めの記述問題がありました。資料問題については、資料を暗記する必要はなく、試験中に各自が印刷した資料を見ながら問題に対応する箇所を文章になおして解答する、というもので、自分で図やグラフなどを書くこともできます。留学生は辞書の使用も認められていました。結果はそれほど悪くなく、すべての授業で単位を取得することができたので、安心しています。

後期の授業は、Literatura Contemporánea Japonesa(日本近代文学)、Escritura de Asia Oriental:Caracteres(東アジアの文字)、Sociedades de Asia Oriental(東アジアの社会)の授業を履修します。日本近代文学の授業は、太宰治や星真一、村上春樹など、明治・昭和～平成にかけての文学について学習します。この授業は、授業の最初に数人のグループに割り振られ、各グループで担当する小説家と小説についてプレゼンと提出課題を行う内容になっています。実際に小説を読んだ感想をプレゼンで話すので、スペイン人が日本文学を読んでどのような感想をもつのか、どのように理解されるのかを知ることができる良い機会だと思い、履修を決めました。

東アジアの文字についての授業は、私が三年次論文で扱ったテーマに少し似ていると思い、選択しました。中国語、韓国語、日本語の文字がどのようにして誕生したのか、それらの文字にはどのような意味があるのかについて学習します。日本で漢字を学習する際には習わないような、甲骨文字からの漢字の成立過程などを知ることができ、とても興味深いです。

東アジアの社会についての授業は、中国、日本、韓国の社会変動について学習します。日本人として馴染み深い3国の社会の歴史についてスペインやヨーロッパの人たちがどのように分析しているのかに興味があり、履修しました。授業の前半では、社会学そのものについても学習するので、アジアの社会変動以外の知識を得ることができると思います。

またその他に、1月末には三年次論文の提出があり、テスト勉強や期末課題とあわせてその準備もしなければならず、とても忙しかったです。私はスペイン語と日本語に関連する内容を扱ったので、図書館でスペイン語に関する文献に多く触れることができました。日本語についての文献は、日本語の本を主に扱っている図書館があったので、そこで日本語の文献を借りました。毎日図書館へ行って文献を見ながら、論文を書き終えました。

前期を終えて、授業の流れやテストの雰囲気を経験したので後期の授業も引き続き頑張りたいと思います。

2. 生活の状況

11, 12, 1 月は冷え込み、以前と比べて雨が降る日も多くなりました。ダウンやマフラーなどの防寒対策が必須になります。それまで日が落ちるのが遅かったですが、徐々に暗くなるのが早くなり、太陽が出ている時間が短くなっているのを感じました。11 月下旬ごろからサラマンカ全体でクリスマスへの準備が始まり、12 月になると広場や道にイルミネーションが設置され、毎晩点灯していました。

11 月末のワールドカップでは、日本人やスペイン人と一緒にバルやテレビで観戦しました。日本とスペインが同じ予選グループだったので、日本とスペインの試合の日は、日本人 20 人くらいでバルに集まってみんなで観戦し、かなり盛り上がりました。今までサッカー観戦はあまりしたことがなく、本格的なサッカー観戦は初めてだったので、とても印象に残っています。クリスマス休暇はルームメイトやヨーロッパ出身の学生は帰省してしまったので、サラマンカに残っている日本人の友だちと過ごしました。ルームメイトが誰もいなかったので、家で一人で過ごす時間が多く、リラックスして過ごせました。

サラマンカの気候にも慣れ、大きく体調を崩すことは減りましたが、気温が上がらなかつたり、乾燥していたりと、まだまだ注意が必要だと感じます。留学後半も体調管理につとめたいと思います。

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2023/02/14 ～2023/06/28)

1. 勉学の状況

後期は、Literatura Contemporánea Japonesa(日本近代文学)、Escritura de Asia Oriental:Caracteres(東アジアの文字)、Sociedades de Asia Oriental(東アジアの社会)を履修しました。

どれも5月に期末試験があり、その準備で忙しかったです。テストは難しい問題もありましたが、授業の復習をしっかりとすれば合格できる内容だと思います。後期は授業のリズムや大学生活に慣れたため、前期よりも余裕をもって発表やレポートの準備をすすめることができました。

前期はスペイン語の聞き取りや会話において苦勞する部分が多かったですが、後期になると授業内容を聞き取ってメモをとったり、課題をスムーズに進めたりすることができるようになり、語学力の向上を実感しました。日常会話で困ることはかなり少なくなり、最初はバルやカフェの店員に声をかけるのに緊張していましたが、今ではおすすを聞いたりちょっとした会話をしたりできるようになりました。

最初は、スペイン人の学生と同じ授業と試験を受け、単位を取得するのは自分にはできるのだろうかと不安な部分が多かったですが、同級生の手助けや先生の丁寧な説明などのおかげでその不安も払拭され、無事にどの授業も単位を取得することができ、安心しています。10か月の留学生活を振り返って、スペイン語のリスニング力、スピーキング力がついたと実感しました。また、履修した授業では日本について扱うものが多く、スペイン語で日本のことを学習するおもしろさも感じることができました。日本語を学習している学生の手伝いも経験することができ、スペイン語だけでなく日本語の奥深さも改めて認識し、とても有意義な時間になりました。語学力の向上を感じるとともに、まだまだ知らないスペイン語、スペイン文化があることも分かりました。サラマンカ大学に留学し、日本では経験できないような授業を履修し、とても印象に残る経験をすることができました。

2. 生活の状況

冬が終わると、気温が高くなり、5月には夏のように暑い日が多くなりました。日が落ちる時間も徐々に遅くなり、6月になると21時を過ぎても明るいです。そのため、夜遅くまでバルやレストランが賑わっています。

人間関係は良好です。日本語学科の学生で、今年の秋や来年の春から日本へ留学する学生が多く、そのことについて相談を受けたり話したりしました。ご飯を食べに行ったり、ピクニックをしたりして時間を過ごしています。日本人の友人で早くに帰国する人のために、みんなで集まってお別れ会をしました。ルームメイトとの関係も良好です。一緒に映画を観たり、ボードゲームをしたりしました。4月には大型連休があり、授業の良い息抜きになりました。

体調面では、一度風邪をひいて、3日寝込みました。今回は熱と頭痛がかなり酷く、日本から薬を持ってきてよかったと思いました。

10か月を通して、ヨーロッパの生活習慣や気候など最初は戸惑うことが多かったです。それにも慣れ、徐々に楽しむことができました。スペインだけでなくさまざまな国の人と交流することで、各国の国民性や価値観の違いなどを発見することができ、とても楽しかったです。英語で会話する場面も多かったため、英語に慣れることもできました。また、同じ日本人の留学生とも交流し、そこでも情報交換をしたり仲を深めたりすることができ、とても良い経験になりました。